

「ICT活用の特性・強み」を知ろう（第1回/全5回）

研修のゴール

GIGAスクール構想の趣旨や、ICTを活用する目的・必要性などについて理解する。

所要時間の目安／1グループの目安人数

20分程度／1グループ4名程度

準備物・資料

- 資料1
（新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係）
- 資料2
（教育・学習におけるICT活用の特性・強み）
- ワークシートイメージ1

研修の主な内容・流れ

- 「新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係」を確認する。（3分）

資料1

新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

2030年の社会と子供たちの未来（平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋）

社会の変化が加速度的に複雑で予測困難に
Society5.0
AI
IoT
robotics
SDGs
社会の変化に即座していかに対応していかたい受け身の観点に立つのであれば難しい時代
変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものに。

平成29年、30年、31年学習指導要領

【原文】 これからの学校には、（略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら種々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創成者となることができるようになることが求められる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱
資質・能力の育成
各教科等で育成を目指す資質・能力の育成
言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の教科横断的な視点に立った資質・能力の育成等

主体的・対話的で深い学び
授業改善
主体的・対話的で深い学び

第3 教育課程の編成と学習評価
主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

第4 児童（生徒）表現の実現
個別最適な学び（教師視点で個別対応指導）、協働的な学び
主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

GIGAスクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）（タブレット・マシントにおける物的な体制整備に留意される。）
教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するための重要な役割を果たす。
①:Digital Education Strategy for ALL

研修を進める際の手立てと工夫



研修担当者

「各自で資料1を読んで、資料のポイントについて確認しましょう。」

【ポイント】

- ① GIGAスクール構想は、**学習指導要領の趣旨を実現するための基盤**となるもの。
- ② 教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、**資質・能力の育成を目指すことが大切**。

この2点について全員で共通認識をもち、「ICT活用の特性・強み」について具体的に考える展開につなげられるようにしましょう。

- 「教育・学習におけるICT活用の特性・強み」を見て、ICT活用のイメージをつかむ。（14分）

資料2

教育・学習におけるICT活用の特性・強み（GIGAスクール標準仕様において活用できるソフト・機能(例)）

1人1台端末、高速大容量の通信ネットワーク環境下におけるICT活用の特性・強み	ソフト・機能
① 多量で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤	ウェブブラウザ、文書作成、表計算、プレゼンテーション、プログラミング
② 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化	（①のソフト・機能に加え）クラウド管理、写真・動画撮影・編集・保存
③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有（双方向性）	（①のソフト・機能に加え）コメント、アンケート、チャット、電子メール、ウェブ会議、ファイル共有

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげ、情報活用能力等の従来はなかなか伸ばせなかった資質・能力の育成や、今までの学習方法では困難さが見られた児童生徒の一部への効果の発揮、今までできなかった学習活動の実施が可能になる。



研修担当者

「資料2を見て、ICT活用の特性・強みによってどのような学習活動が可能となるか、互いに意見交換しましょう。」

※聞きなれない言葉を解説したり、具体的な授業場面の一例を紹介したりする等、ICTの活用が苦手な方も含めた全員が参加しやすいように、参加者の実態に合わせた設定を工夫しましょう。

※意見交換は、模造紙・ホワイトボードの活用や、**クラウドを活用した共同編集**で行うこともできます。



参加者A

「例えば、①の特性を生かすならウェブブラウザのキーワード検索、②の強みを生かすなら理科の学習で植物の観察記録ができますね。」



参加者B

「③の強みを生かすなら共同編集が当てはまりますね。これは校務でも活用できそうです。」

- 研修のまとめを行う。（3分）

【ポイント】

ICT活用においては、活用することそのものが目的とならないようにすることが大切です。

そのため、GIGAスクール構想が、**学習指導要領の趣旨を実現するための基盤**となるものであることを理解する必要があります。

このポイントについては、今後、研修を続けていく上で何度も立ち返るようにしましょう。

実践できそうな事例を選び、実践の見通しをもとう (第3回/全5回)

研修のゴール

StuDX Styleの掲載事例を参考にして、活用の第一歩を踏み出す機会とする。

所要時間の目安 / 1グループの目安人数

20分程度 / 1グループ4名程度

準備物・資料

- [資料4](#) (慣れる・つながる事例一覧)
- [資料5](#) ("すぐにでも""どの教科でも""誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン)
- ワークシートイメージ3

研修の主な内容・流れ

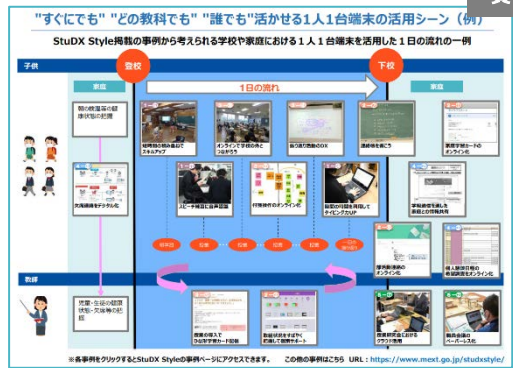
- 「慣れる・つながる事例一覧」「"すぐにでも""どの教科でも""誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン」等の資料を参考に、実践できそうな事例を選び、どのような形で実践できそうか交流する。(17分)

資料4

「StuDX Style」"慣れる・つながる"掲載事例一覧 (R4/2/18時点)

事例ID	事例名	実施校	URL
1	StuDX Style活用事例1	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/1
2	StuDX Style活用事例2	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/2
3	StuDX Style活用事例3	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/3
4	StuDX Style活用事例4	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/4
5	StuDX Style活用事例5	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/5
6	StuDX Style活用事例6	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/6
7	StuDX Style活用事例7	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/7
8	StuDX Style活用事例8	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/8
9	StuDX Style活用事例9	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/9
10	StuDX Style活用事例10	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/10
11	StuDX Style活用事例11	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/11
12	StuDX Style活用事例12	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/12
13	StuDX Style活用事例13	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/13
14	StuDX Style活用事例14	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/14
15	StuDX Style活用事例15	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/15
16	StuDX Style活用事例16	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/16
17	StuDX Style活用事例17	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/17
18	StuDX Style活用事例18	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/18
19	StuDX Style活用事例19	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/19
20	StuDX Style活用事例20	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/20
21	StuDX Style活用事例21	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/21
22	StuDX Style活用事例22	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/22
23	StuDX Style活用事例23	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/23
24	StuDX Style活用事例24	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/24
25	StuDX Style活用事例25	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/25
26	StuDX Style活用事例26	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/26
27	StuDX Style活用事例27	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/27
28	StuDX Style活用事例28	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/28
29	StuDX Style活用事例29	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/29
30	StuDX Style活用事例30	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/30
31	StuDX Style活用事例31	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/31
32	StuDX Style活用事例32	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/32
33	StuDX Style活用事例33	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/33
34	StuDX Style活用事例34	東京都立大	https://www.studxstyle.jp/case-study/34

資料5



研修を進める際の手立てと工夫



研修担当者

「各自で資料4や資料5を見て、実践できそうな事例について、互いに意見交換しましょう。」



参加者A

「1-⑥『短時間の積み重ねでスキルアップ』の事例を参考に、朝の時間にキーボード入力の練習をしてみようと思います。」



参加者B

「2-⑦『連絡帳を書こう』の事例のように、クラウド上の掲示板を活用するのも効果的です。」



研修担当者

「実践していく上で、子供の実態に合わせてアレンジしたり工夫したりする点について、意見交換しましょう。」



参加者C

「私はキーボード入力の練習を年度初めに集中して行ったので、その後の活用が進みました。おすすめのやり方です。」



参加者B

「低学年は写真に撮って、高学年は文字で入力して、学習支援ツールに保存することで、時間を削減することができます。」

- 研修のまとめを行う。(3分)

【ポイント】

前回の研修ではStuDX Styleの全体像をつかみました。その次の段階としては、掲載されている事例等を参考に、実際の活用に向けての見通しやイメージをもつことが重要です。

今回の研修では「慣れる・つながる活用事例」を参考にしてきましたが、他にも、各教科等の事例や特集ページの内容を参考にするなど、今後の取組につなげていきましょう。

各自の実践事例を持ち寄り今後につなげよう (第5回/全5回)

研修のゴール

各自の実践事例を持ち寄り互いに交流し、より良いICT活用の仕方を見いだす。

所要時間の目安 / 1グループの目安人数

20分程度 / 1グループ4名程度

準備物・資料

- 各自の実践事例の分かる資料等
- 資料1
(新学習指導要領とGIGAスクール構想の関係)
- ワークシートイメージ5

研修の主な内容・流れ

- 各自の実践事例を持ち寄り、実践してみたい感想や気付いたこと等について交流する。(10分)



研修を進める際の手立てと工夫



研修担当者

「各自の実践事例について互いに紹介しましょう。取組に加えて、子供たちの反応や実践してみたい感想も交流しましょう。」



参加者A

「みんなの実践で共通していることは、子供たちの反応が良かった点ですね。」

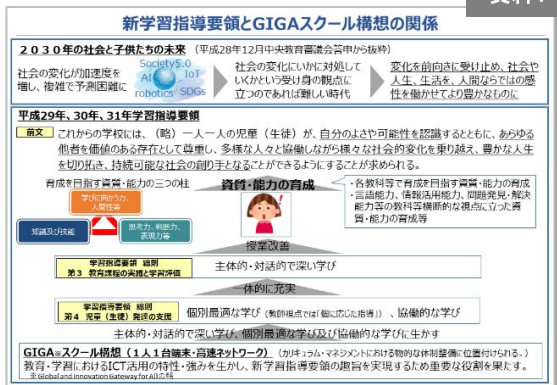


参加者B

「初めて授業でICTを使ってみました。うまくいかなかったところは子供たちが互いに声をかけながら進めてくれました。」

- これまで参考にしてきた資料等を見返し、今後につなげる。(7分)

資料1



研修担当者

「第1回の研修の際に見た資料を、改めて今回の実践と結び付けて確認してみましょう。その上で気付いたことがあれば、意見交換しましょう。」



参加者C

「各自が実践した上で改めて資料1を見ると、ICT活用の目的やGIGAスクール構想の趣旨を意識することができますね。」

【ポイント】

「各自の実践が、児童生徒の**資質・能力の育成につながっているか**」「ICT端末を活用すること**自体が目的となっていないか**」などの視点で振り返ることが大切です。

- 今回の研修のまとめを行う。(3分)

「GIGA StuDX メールマガジン」の配信

文部科学省では、「GIGA StuDXメールマガジン」として、学習指導等における1人1台端末の活用について、学校で役に立つ情報をお届けしています。この機会に登録してみましょう。



【ポイント】

各自が実践した事例を持ち寄り、実践の感想や互いの気づきを交流することが取組の推進につながります。今回の研修で終わりとするのではなく、子供の実態に合わせて研修内容をアレンジし、今後も随時改善を図っていくことが大切です。ICTの効果的な活用に向けて継続的に取り組んでいきましょう。